

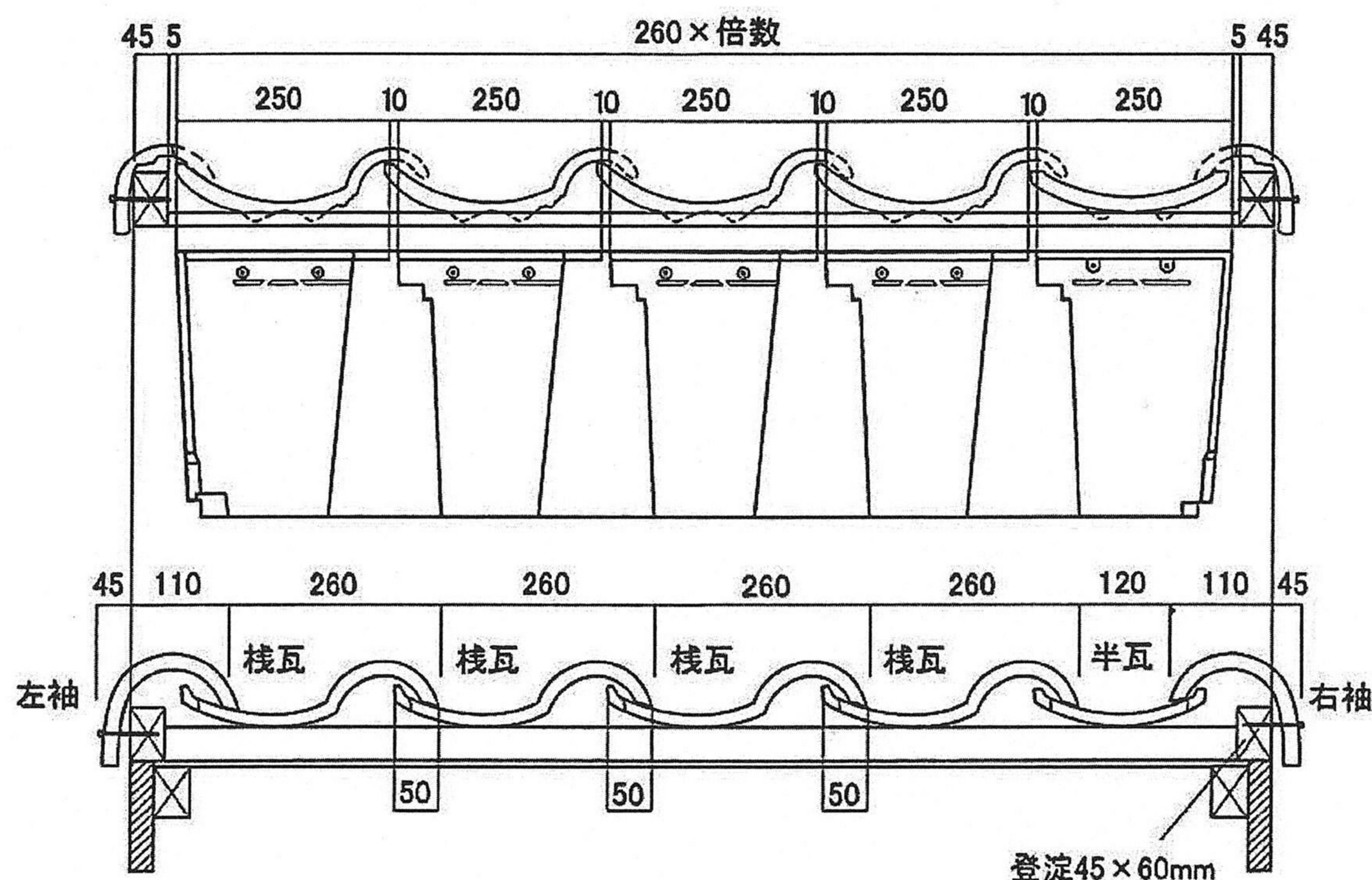
S形瓦防災

標準施工資料

 東洋瓦株式会社

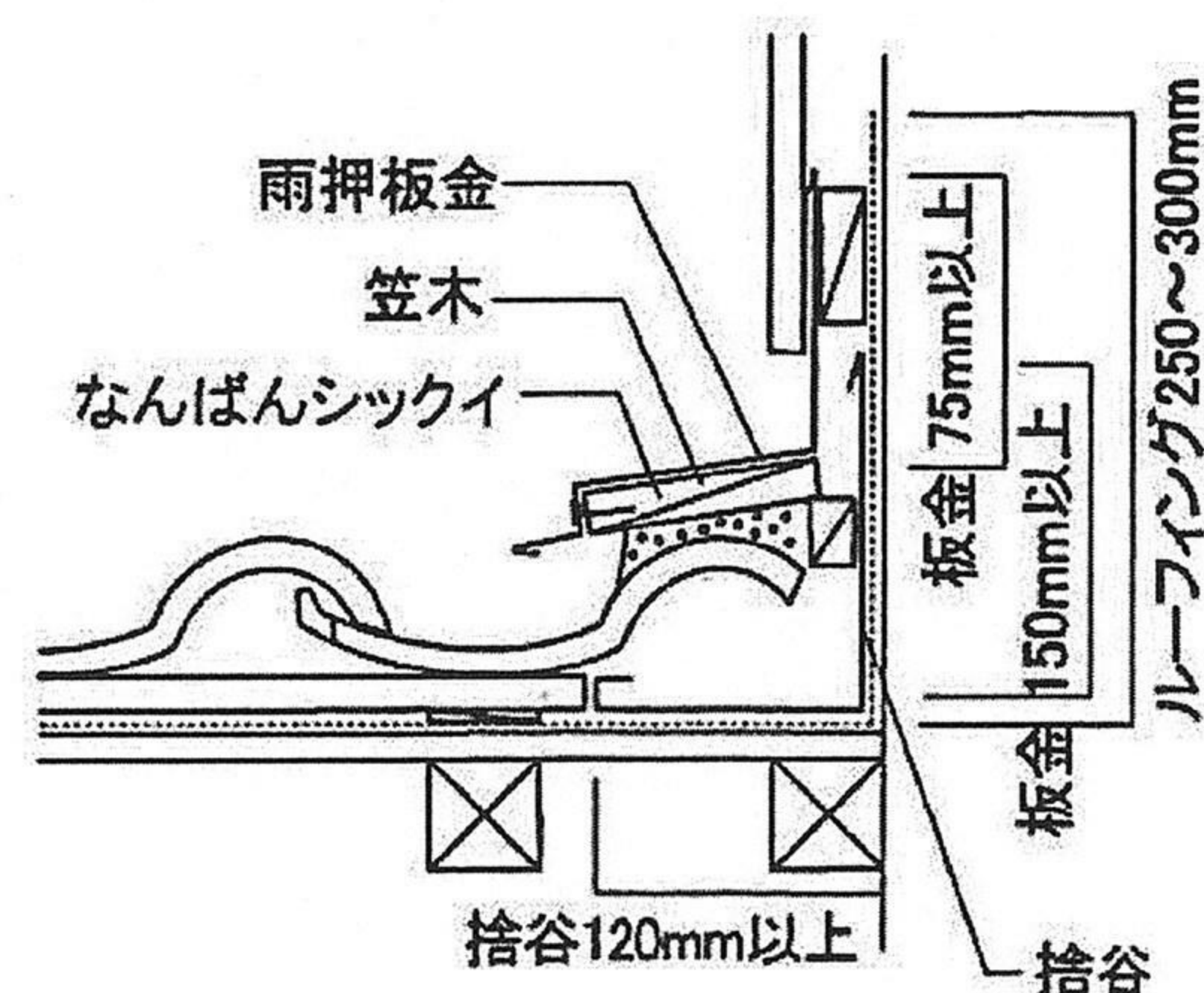
■ 納まり

【桁行方向】



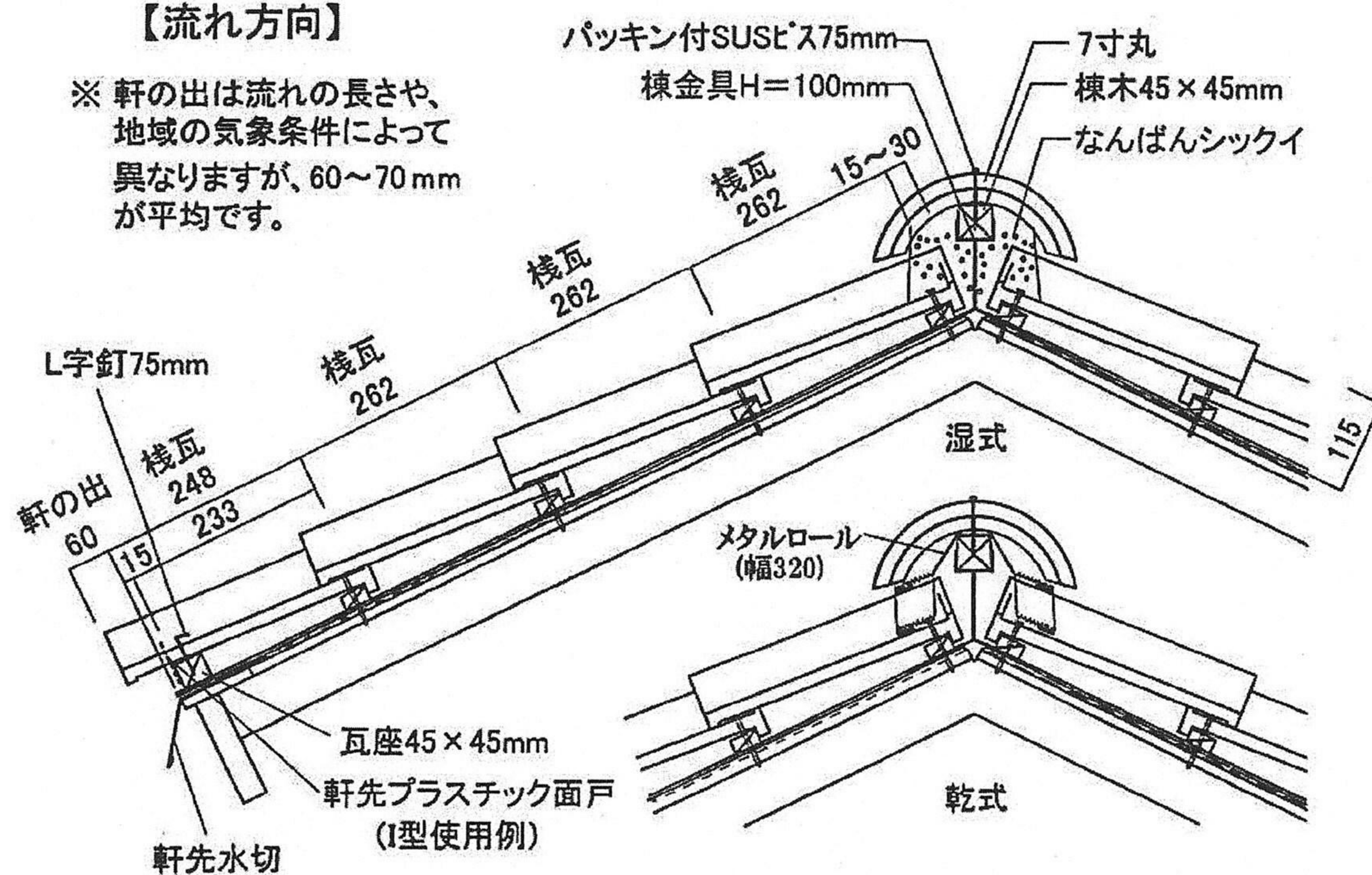
【流れ壁】

捨谷板金を軒先まで取付けて下さい。
シーラー又はなんばんシッキイを充填して下さい。



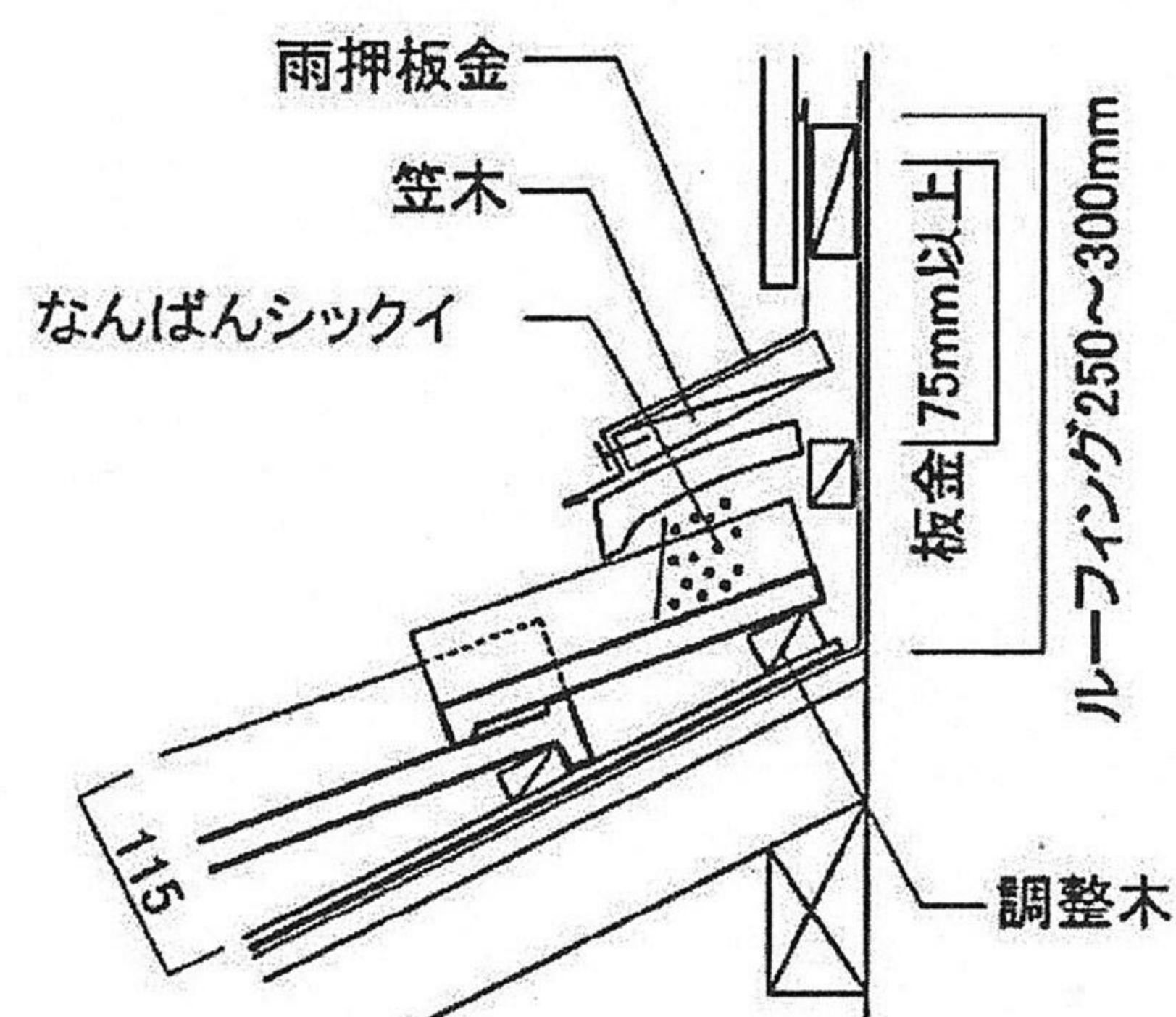
【流れ方向】

※ 軒の出は流れの長さや、
地域の気象条件によって
異なりますが、60~70mm
が平均です。



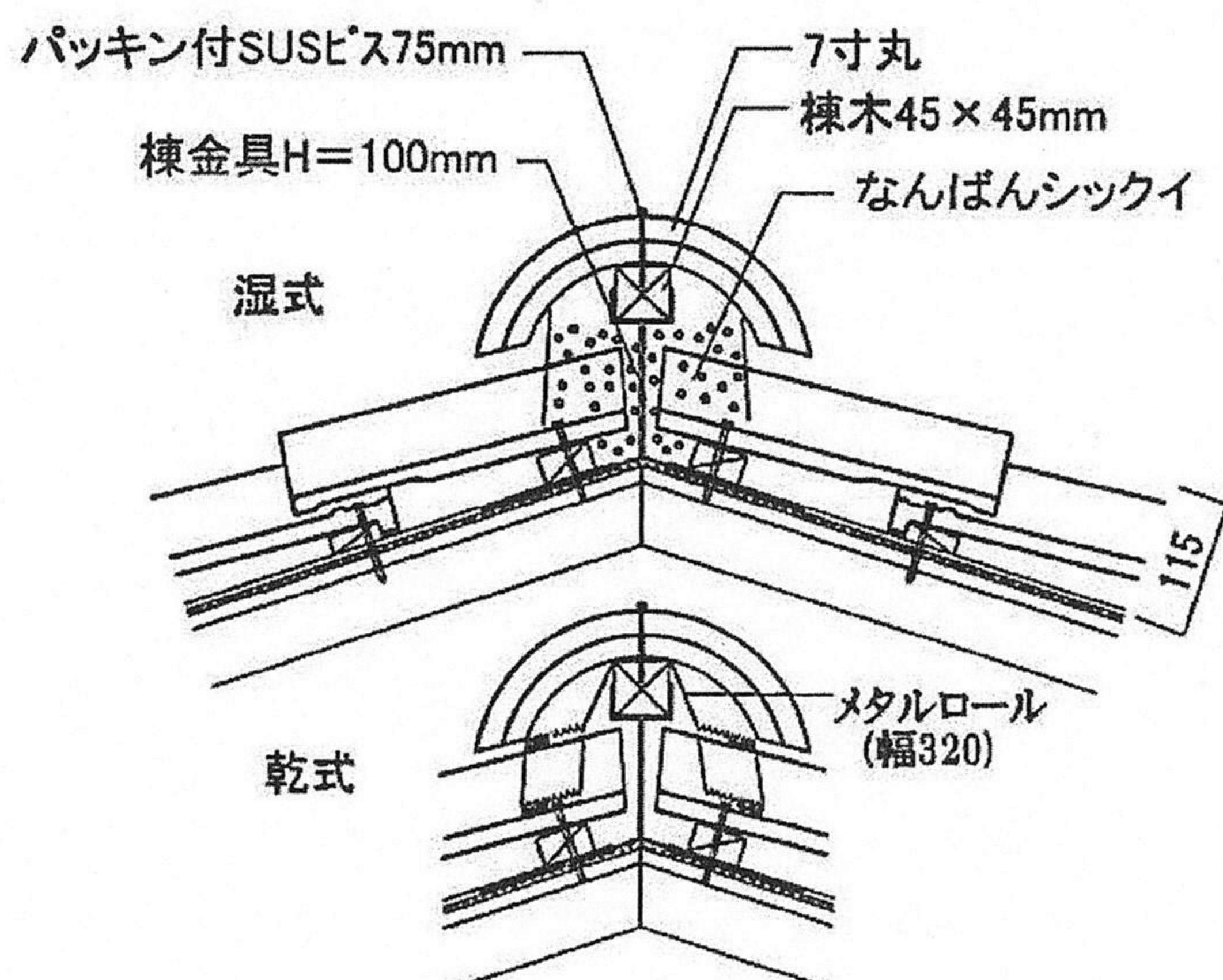
【平行壁】

壁隙部ののれ瓦をカットする場合はカットしたれ瓦
に穴開け、緊結して下さい。
なんばんシッキイを充填して下さい。



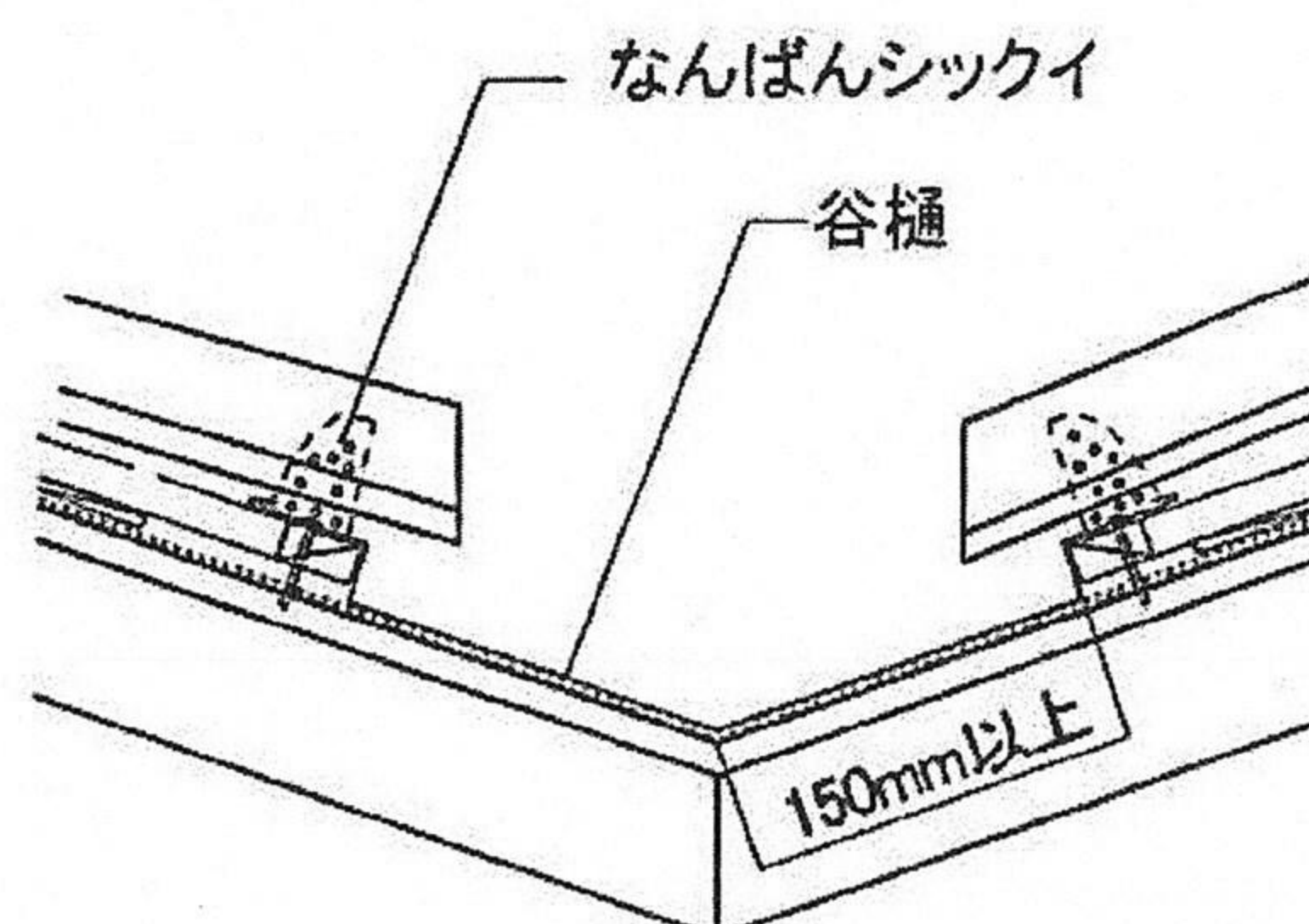
【隅棟】

隅部のカットしたれ瓦は隣接する緊接されたれ瓦に
接着剤で接着、または穴開け、緊結して下さい。
隣接するれ瓦は増し打ちなどの補強をして下さい。



【谷部】

隅部のカットしたれ瓦は隣接する緊接されたれ瓦に
接着剤で接着、または穴開け、緊結して下さい。
谷部の隙間をなんばんシッキイで充填して下さい。
捨てれ木を取り付けてください。
谷樋のジョイント部は100mm以上重ねてコーキング
処理して下さい。



製品仕様

■ 棧瓦の仕様



*の表示は働き寸法

寸法

全 長(mm): 320±4.0
全 幅(mm): 310±4.0
働き長さ(mm): 262
働き幅(mm): 260

品質

吸水率(平均%): 6.5
曲げ破壊荷重(N): 1500以上
耐凍害性(凍害試験): 合格
防火性(不燃性): 法定不燃材

必要数

㎡当り枚数(枚): 14.7
坪当り枚数(枚): 49

重量

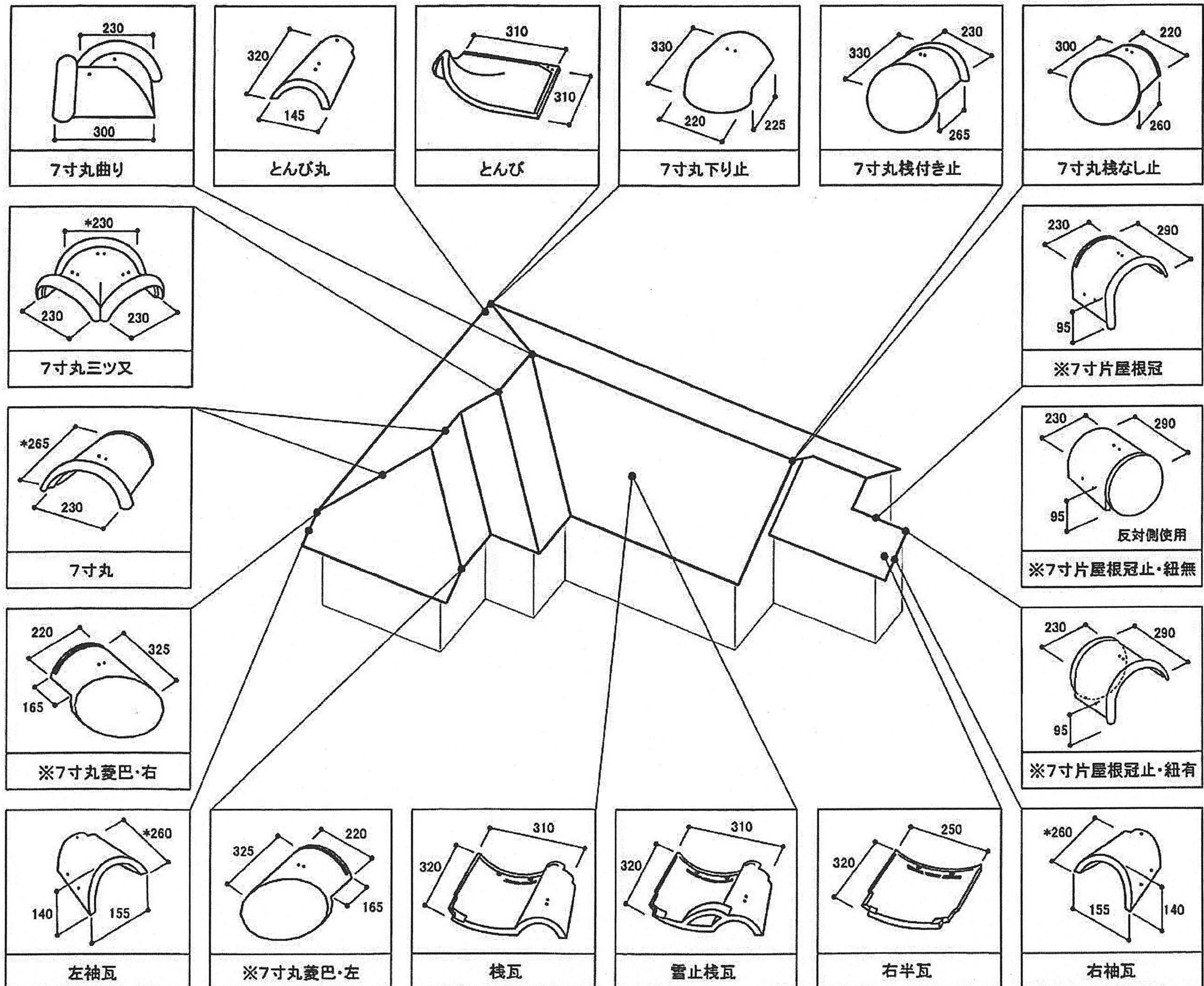
1枚当り(kg): 3.2
㎡当り(kg): 47

荷姿

1梱包(枚数): 4
1パレット(枚数): 324

■ 棧瓦の使用部位

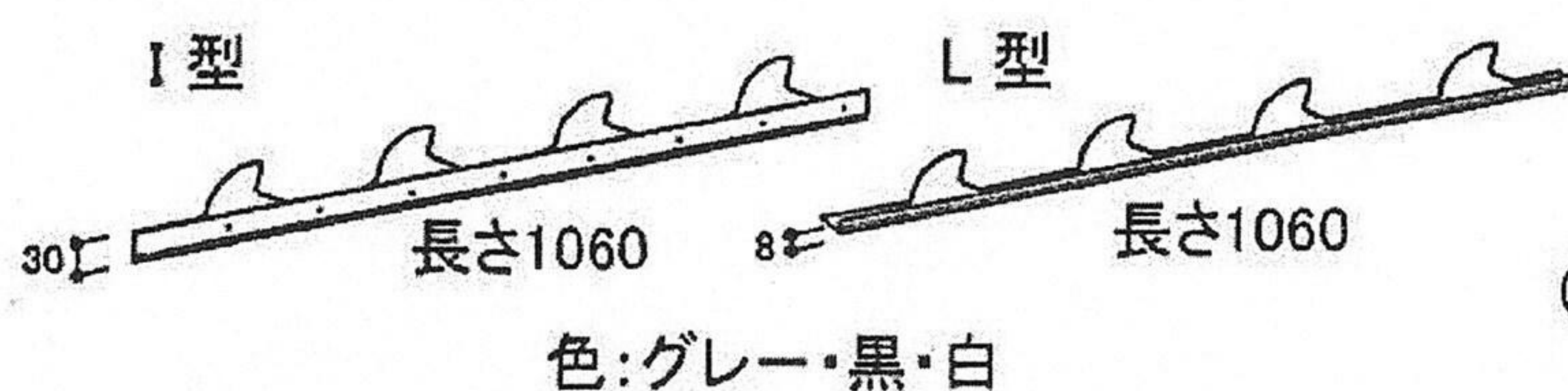
※の表示は受注生産品



■ 副資材

●軒先プラスチック面戸

I 型



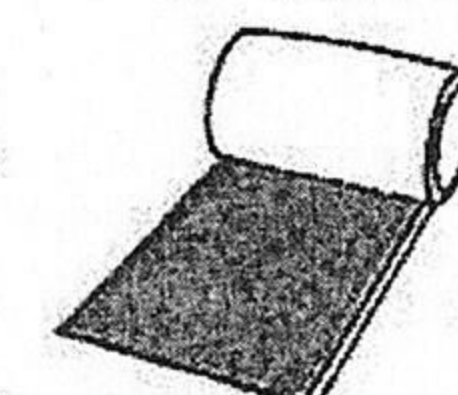
色: グレー・黒・白

●クシ面戸



(乾式施工)
(長さ1000mm×幅75mm 黒)

●ワカフレックス



(乾式施工)
(幅280mm×5m 黒)
(雨押、捨谷、トップライト廻り)

●メタルロール



(乾式施工)
(本棟・隅棟)
(幅320mm×5m 黒)

●SUSリングスクリュー回転止釘/65mm(棧瓦固定用)

●パッキン付SUSビス/65、75、95、100mm(役瓦固定用)

●棟金具/H=60、80、100mm

●SUSL字釘/L=75mm

●補修用ペイント(刷毛付き)

■ 現地調達参考資材

●ゴムアス系ルーフィング

●桧木/15×30mm以上

●木材/□45mm(瓦座、棟木)、□45×60mm(登り淀)

●笠木/15×90(雨押さえ板金固定用)

●板金類/GLt=0.35以上(軒先、捨て水切、本谷など)

●変成シリコン系接着剤

●シリコン入りなんばんシクイ

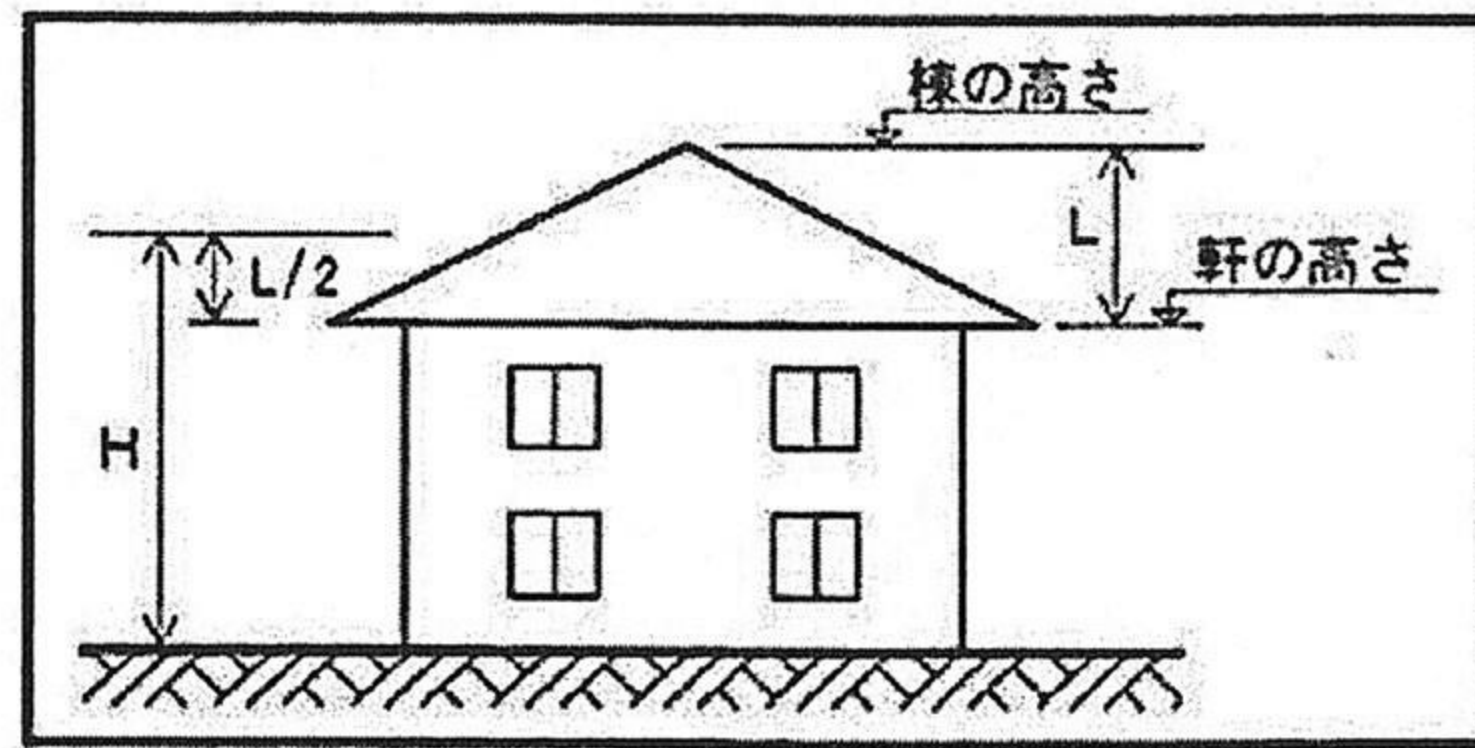
●ステンレス線、被覆銅線

■ 施工地域工法選定

①「建物の高さH」を算出する

※実例：2F建て、軒高は7mで、
棟の最高高さは9mの場合

■「建物の高さH」 $= (9\text{m} + 7\text{m}) \div 2 = 8\text{m}$

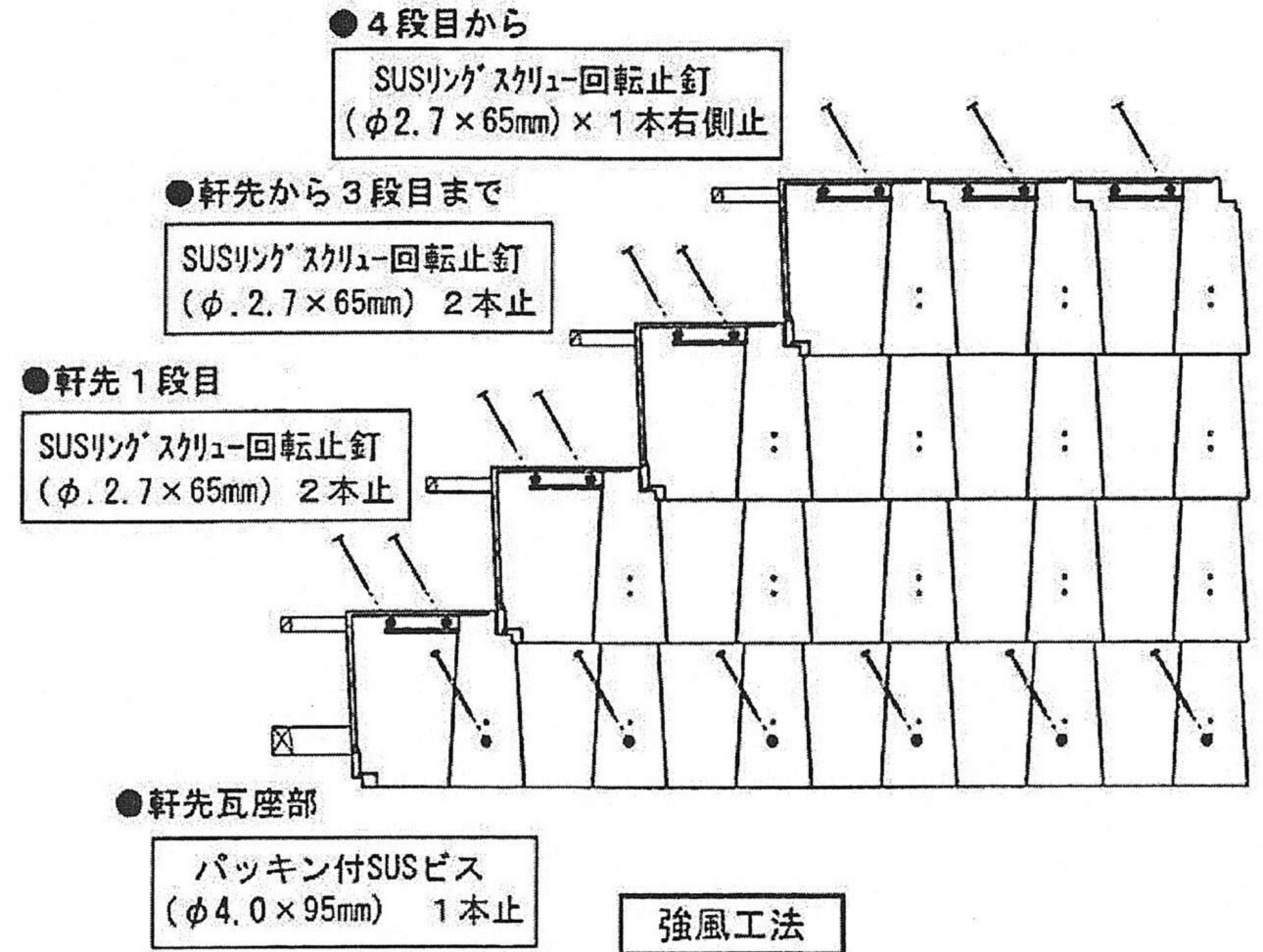
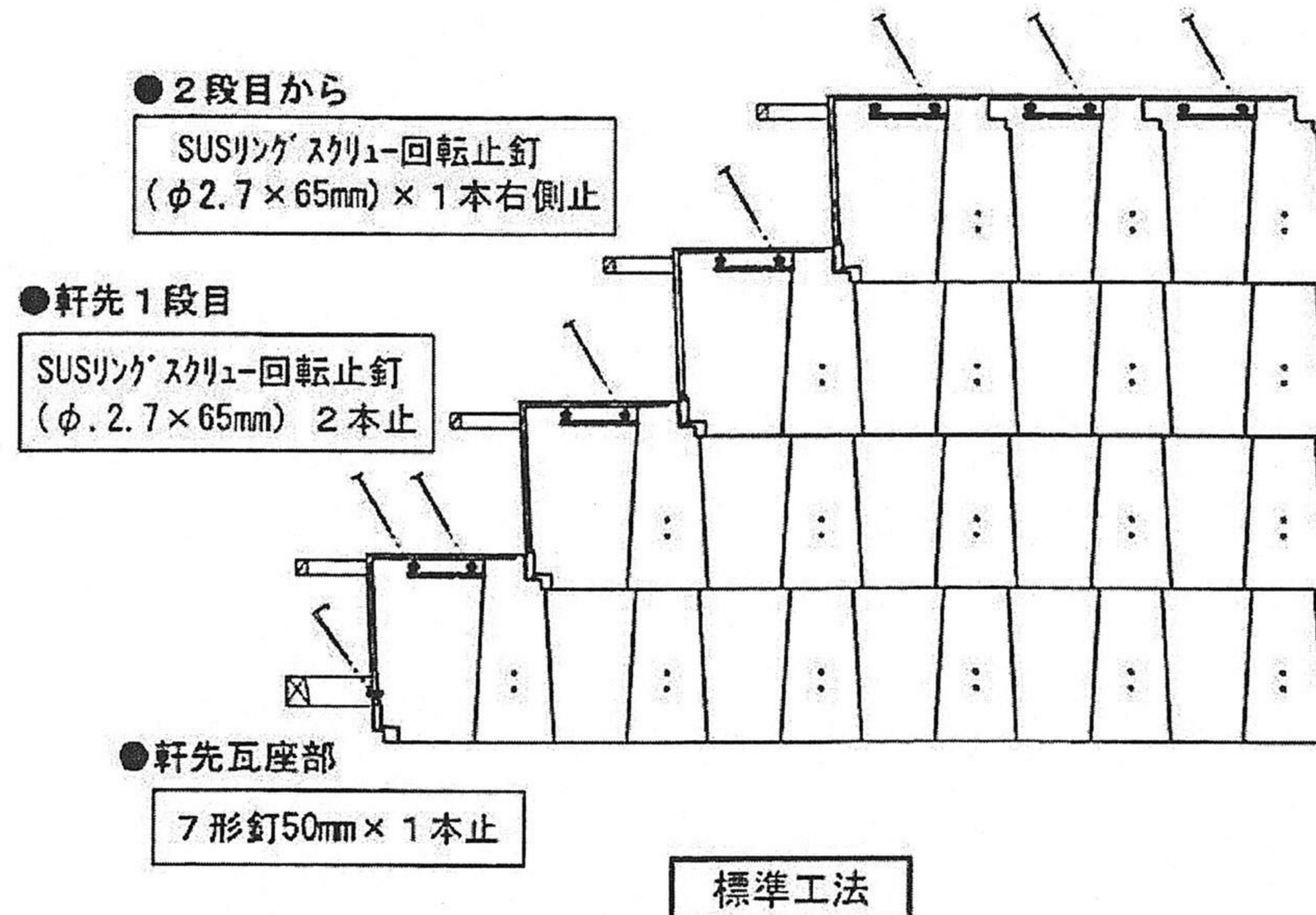


②「建物の高さH」及び地域の基準風速（建築法基準法にて）から施工工法を確定する

■「施工工法の選定」

地域	一般地域				強風地域				
基準風速 V_0 (m/s)	30	32	34	36	38	40	42	44	46
建物高さH(m)	5								
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									

③標準工法と強風工法の緊結法



- 本資料は平成13年8月13日発行の『瓦屋根標準設計・施工ガイドライン』に掲載された仕様規定及びこれに準拠して行った引き上げ試験（標準試験）の結果に基づいて作成したものです。
- 原則として建物の高さ13m以下、軒高は9m以下の2階建て一般木造住宅屋根に適用します。
- 屋根下地材は構造用耐水合板12mmが基準です。

■ 二次災害等の防止

- 強風地域、強風場所、中高層の建物に瓦を施工する場合は、瓦の折損による飛散、瓦を止めている釘やビスの抜けによる飛散、瓦の取り合いに使用されている役物の飛散による二次災害等を考慮して設計・施工する必要があります。
- 建物の立地状況や、屋根勾配、また地域の気象状況に応じて固定釘の多用や、ビス固定、クリップ施工などの強風工法を考慮した施工をしてください。

■ 役瓦・切瓦の固定

- 役物瓦の暴露する部分の固定については、すべてSUSパッキン付ビス又は線径0.9mm以上の被覆銅線で固定してください。
- 壁際部、ケラバ部、棟部、天窓回り、谷部などで瓦をカットして納める場合は、必ずドリルで切瓦を穴開けしてSUSパッキン付きビスや釘又は線径0.9mm以上の被覆銅線で固定してください。
- 小さすぎて、穴開けできない切瓦は変成シリコン系接着剤で接着してください。

粘土瓦製品の特性についてのお願い／ご注意

- 粘土成分の違いや気圧などの気象条件による焼成窯内雰囲気の変化により、「色ムラ」が発生する場合があります。
- やき物特有の「ネジレ」や「バラツキ」の生じる場合があります。そのため葺き上げ後、瓦と瓦の間に「スキマ」が発生することがあります。
- 施工後、日焼けによる「色あせ」や「ホコリ」の付着などによる「色合いの変化」が生じることがありますが、屋根材としての品質・性能および耐久性を損なうものではありません。

- 陶器瓦（釉薬瓦）には「貫入（かんにゅう）」と呼ばれる表面亀裂が発生する場合がありますが、陶器製品特有の釉薬表面層に発生する亀裂であり、本体生地までの亀裂ではなく、品質の劣化を伴うものではありません。
- 陶器瓦（釉薬瓦）には釉薬面に「ピンホール（小さなへこみ）」や粘土素地の露出が発生する場合がありますが、これは釉薬の気泡や粘土に含まれる有機物などが燃焼して発生するものであり、品質上の問題は一切ありません。

- 天然資源の有効活用と環境保全のために、不良品を粉砕したもの（シャモット）を粘土の中に数パーセントを入れ、リサイクルしています。シャモット中の釉薬成分が表面に表れ、「シミ」が出る場合があります。
- 日当たりの悪い場所、湿度の高い場所に施工された瓦には、「コケ」や「カビ」が発生することがあります。これは瓦表面層に発生しているものであり、屋根材としての品質・性能を損なうものではありません。

安全に関するご注意

- 粘土瓦の施工には専門の工事が必要です。専門工事業者にご相談ください。落下・雨漏り等の原因になることがあります。
- 寒冷積雪地域・強風地域・多雨地域では、特殊な工事が必要とする場合があります。こうした地域で粘土瓦を使う場合は、専門

工事業者にご相談ください。

- 粘土瓦を使った屋根は、関連する工事標準仕様書に基づいて設計してください。特殊な工事を行う場合は、専門工事業者にご相談ください。
- われものにつき、運搬・解梱・積み上げにご注意ください。

●標準屋根勾配とその流れ長さ

標準屋根勾配	4.0/10	4.5/10	5.0/10	5.5/10	6.0/10
その流れ長さ	8m	10m	12m	15m	17m

- 【注】1：これは瓦を安心してお使い頂くための標準値です。
2：屋根勾配が4/10未満の際はご相談ください。

【製品は改良のため、予告なく変更することがあります。】

東洋瓦株式会社

本社／愛知県高浜市田戸町二丁目2番地44

TEL：0566-54-1040（代）

FAX：0566-54-1021

ホームページアドレス

<http://www.toyo-kawara.co.jp>